

2024年2月期 第2四半期決算

イオン株式会社

2023年10月11日

- ・営業収益から親会社株主に帰属する四半期純利益までの**全ての段階利益で増収増益**
- ・営業収益から経常利益までの段階利益で**過去最高を更新**

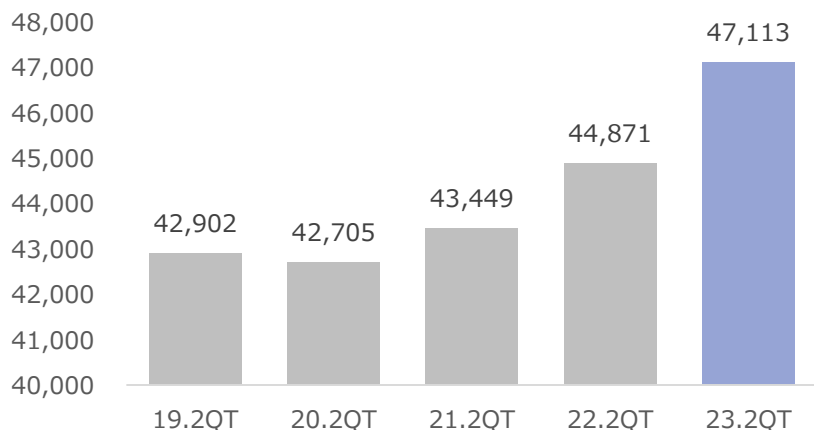
連結業績

(億円,%)

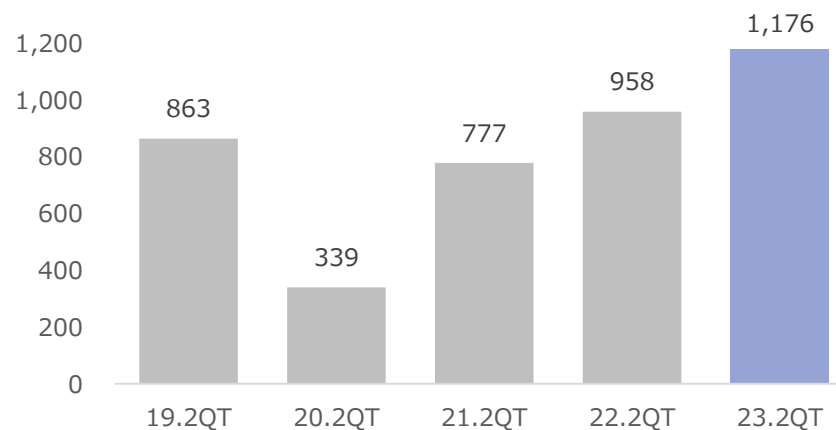
	前期	当期実績		
	上期実績	上期実績	前年同期比	前年同期差
営業収益	44,871	47,113	105.0%	+2,241
営業利益	958	1,176	122.7%	+217
経常利益	953	1,119	117.4%	+165
親会社株主に帰属する 四半期純利益	180	233	129.3%	+52

・20年度以降、営業収益から親会社株主に帰属する四半期純利益まで右肩上がりに増加。いずれも19年度のコロナ前実績を大きく上回る

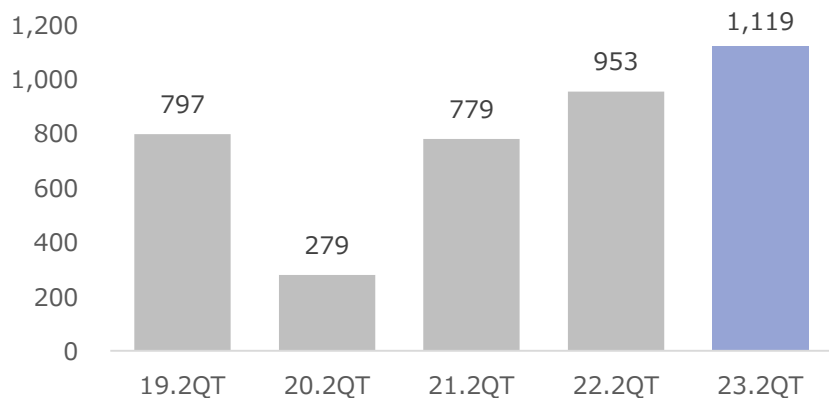
営業収益 (億円)



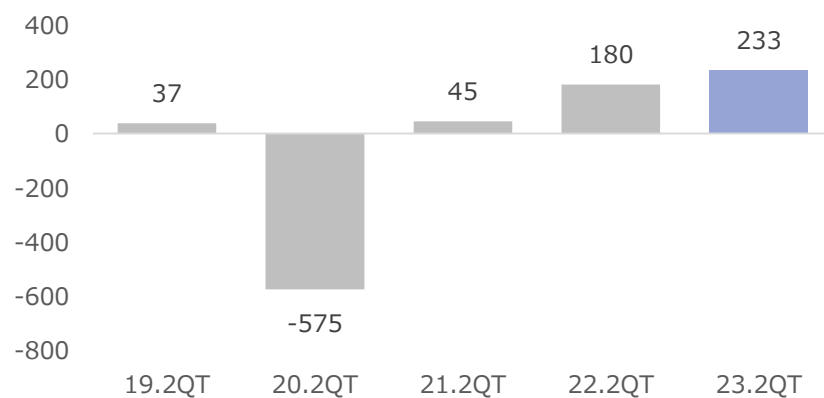
営業利益 (億円)



経常利益 (億円)



親会社株主に帰属する四半期純利益 (億円)



セグメント別業績



営業収益：報告セグメントの全事業が増収

営業利益：主力の小売事業を中心に、6事業が増益

セグメント別業績

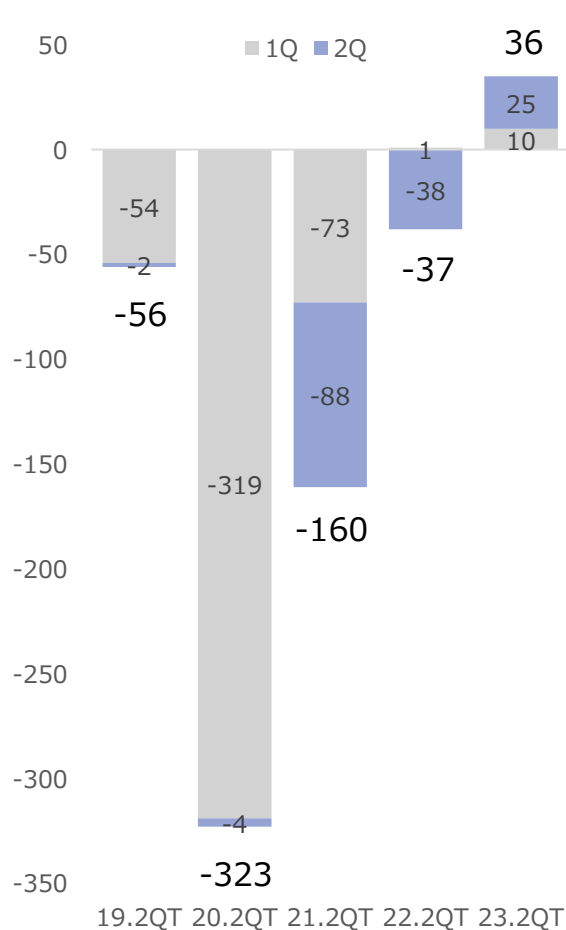
(億円,%)

		営業収益		営業利益	
		実績	前期比	実績	前期差
報告 セグ メン ト	GMS事業	16,710	+4.5%	36	+73
	SM事業	13,538	+3.4%	164	+79
	DS事業	2,004	+4.8%	42	+33
	ヘルス&ウェルネス事業	6,137	+8.6%	242	+6
	総合金融事業	2,376	+6.4%	216	-108
	ディベロッパー事業	2,332	+7.8%	250	+20
	サービス・専門店事業	4,018	+6.6%	116	+56
	国際事業	2,547	+3.8%	58	-15
その他		279	+7.7%	-38	-35
調整額		-2,833	-	87	+105
連結合計		47,113	+5.0%	1,176	+217

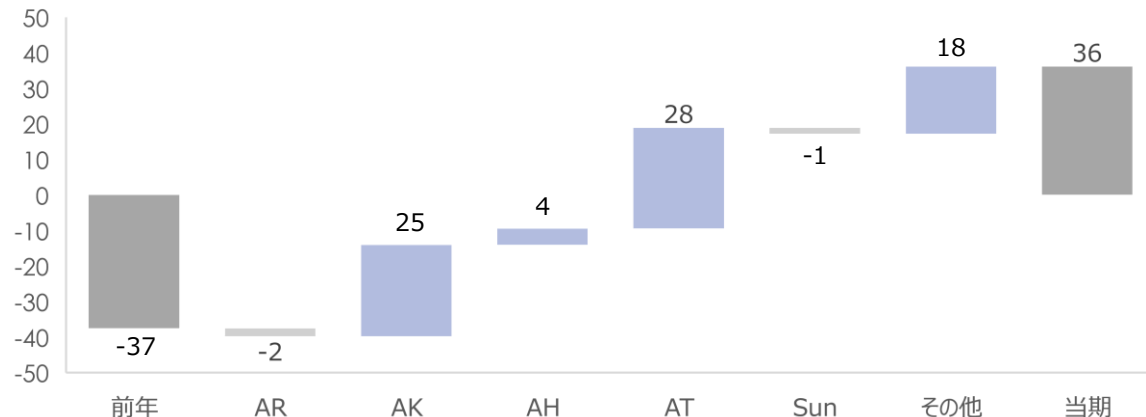
セグメント別実績の概況

- ・2013年以来10期ぶりに上期黒字化
- ・コロナ下で経営統合した地域GMS各社が上期黒字化に貢献

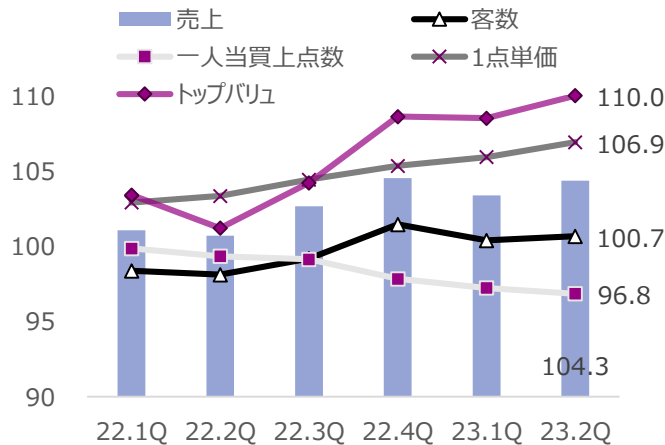
セグメント利益 ※1 (億円)



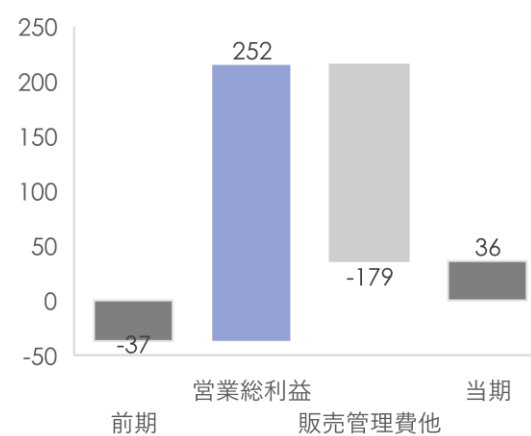
営業利益増減 ※2 ※3 (億円)



既存店売上・トップバリュ売上前年同期比 (%)

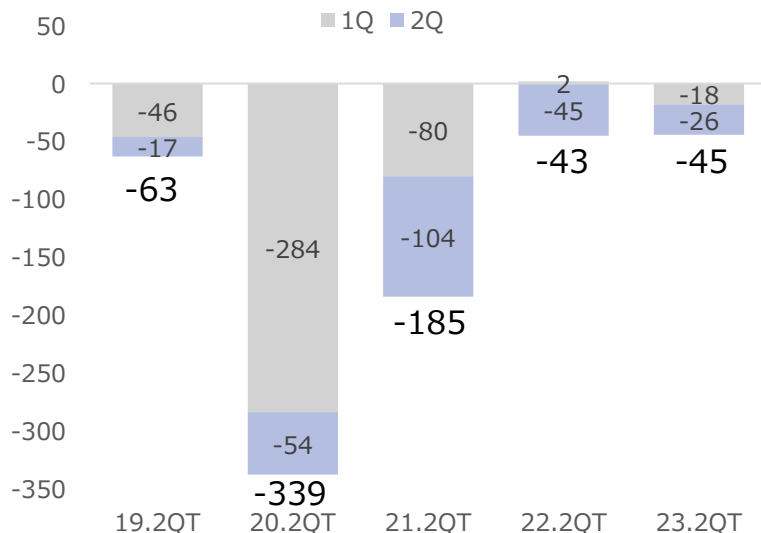


営業損益増減要因 (億円)

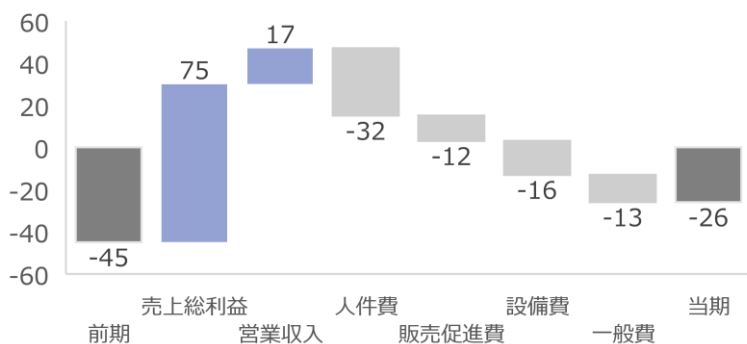


- ・営業損益は2Qで前年実績を上回り、上期で前年同水準にまで回復
- ・コスト上昇を売上総利益の改善、省エネ投資、DXによる業務効率化で打ち返す

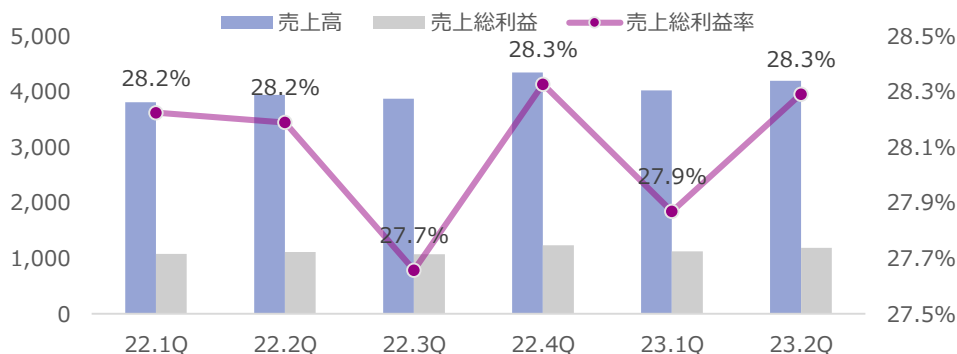
営業損益推移 (億円)



営業損益増減要因 (2Q) (億円)



売上・売上総利益・率増減推移 (億円、%)

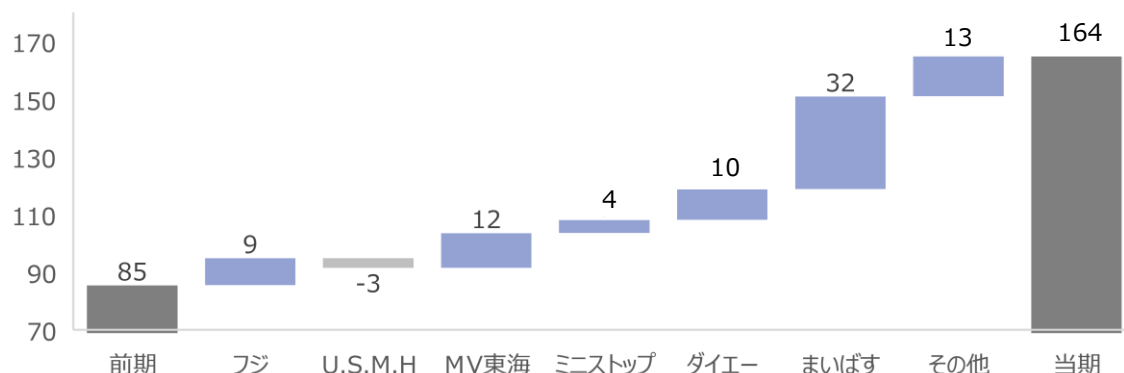
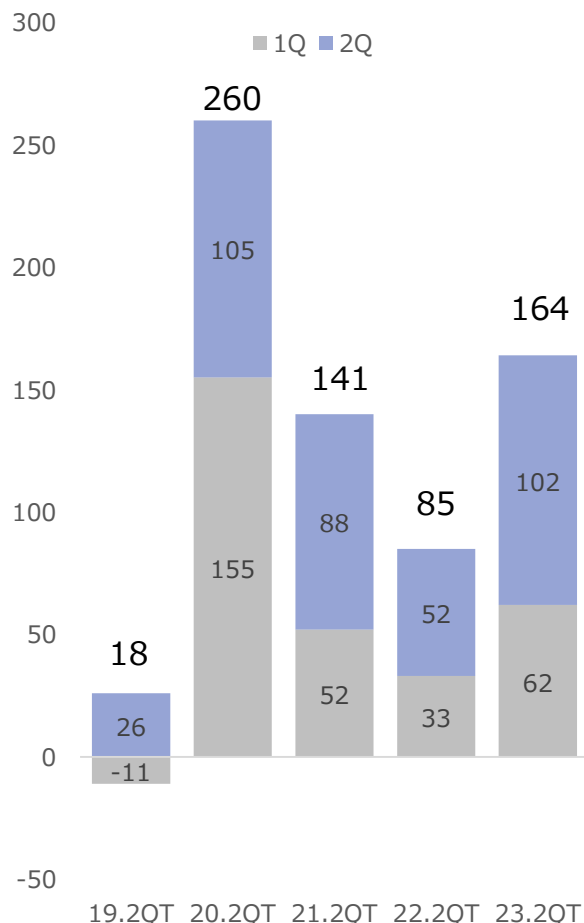


中計・構造改革の進捗、コスト上昇の影響 ※1

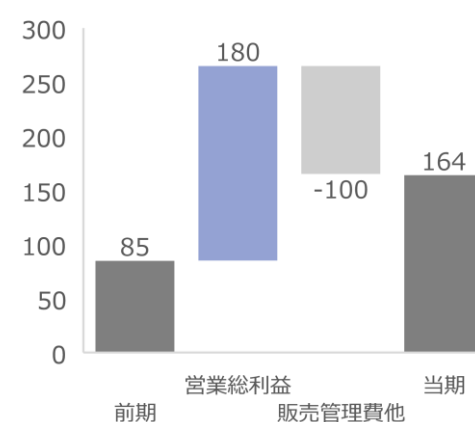
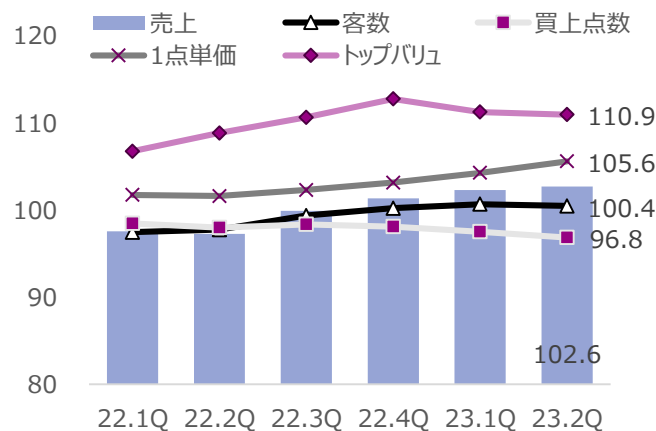
トップバリュ売上 前年同期比	108.5%	食品 111.6%	人時生産性 前年同期比	106.3%
在庫 ※2	1,138億円	1Q差 -103億円	賃上影響 前年同期差	+53億円
テナント家賃収入 前年同期差	+17億		水光熱費 前年同期差	+14億円
EC事業売上 前年同期比	106.6%		AIオーダー	357店舗
ネットスーパー	256店舗		AIカメラ (アイテンド)	77店舗
セミセルフレジ	350店舗		AIカク	デリカ 340店舗 デイリー 328店舗
レジゴー	169店舗		MaIボード ※3	322店舗 食品

・コロナ特需後の業績下降を反転し、上期営業利益は前年の約2倍に伸長
 ・まいばすけっとは、都市圏の人流回復により客数が増加。セルフレジ導入による業務効率化やデータ分析による商品発注精度の向上で大幅増益

セグメント利益 ※1 (億円) 営業利益増減 ※2 (億円)



既存店売上・トップバリュ売上前年同期比 ※3 (%) 営業損益増減要因 (億円)



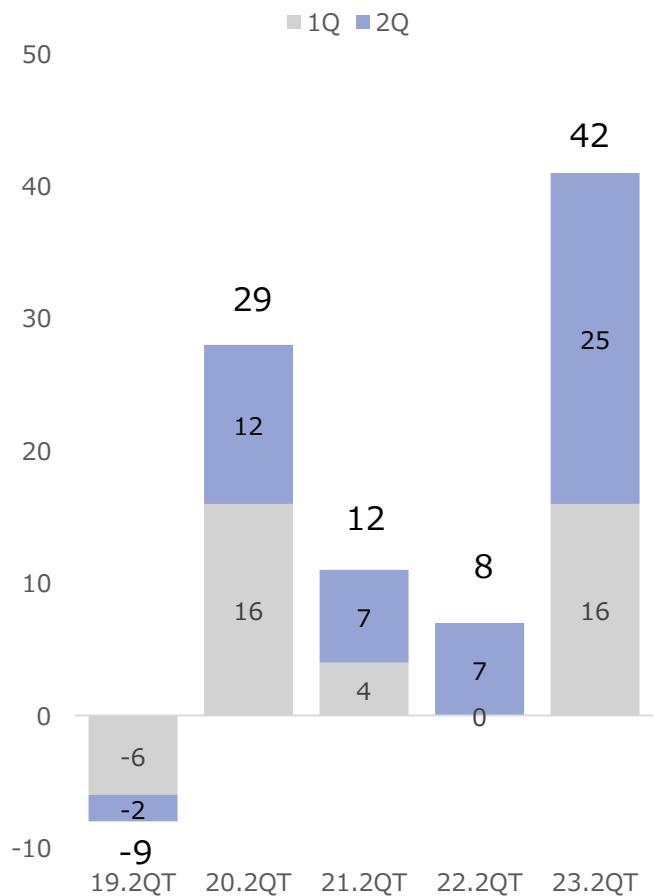
DS(ディスカウントストア)事業



- ・インフレによる購買行動の変化を捉え、2020年度のコロナ特需を上回る増益
- ・独自PBや大容量商品拡販で利益率上昇、マテハンやDXによる効率化で販管比率改善

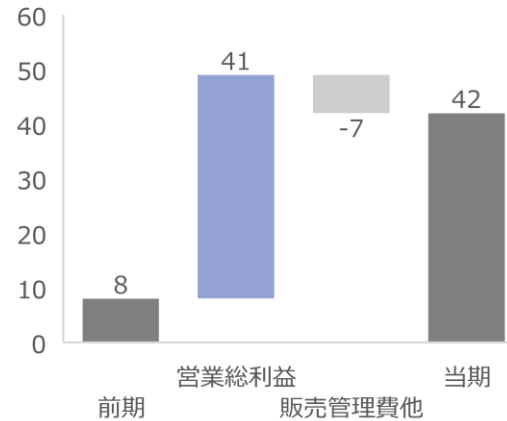
セグメント利益 ※

(億円)

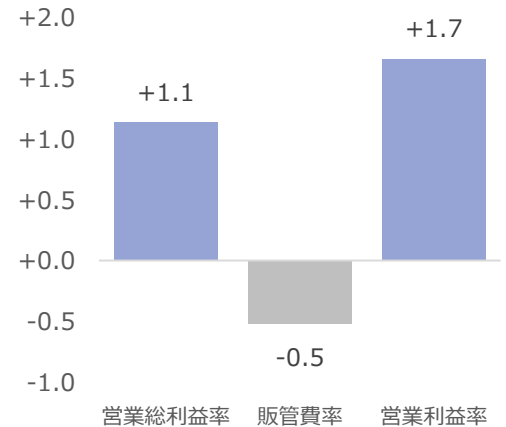


営業利益増減要因

(億円)

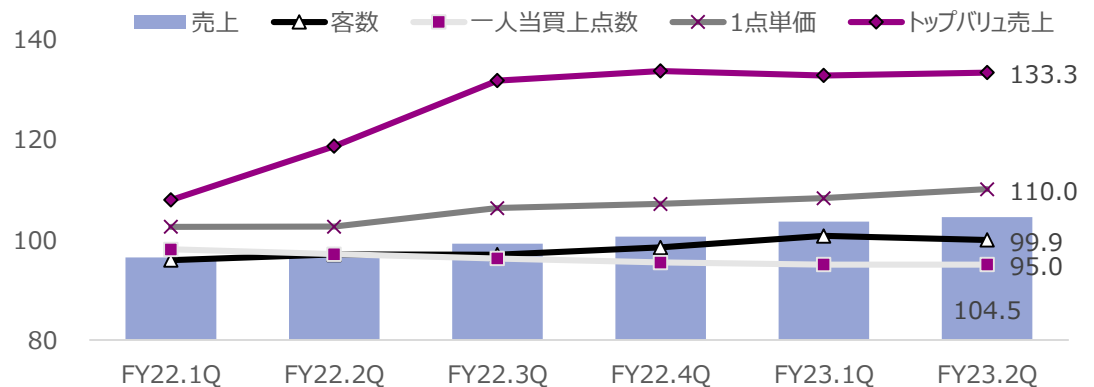


対営業収益比率の前年同期差 (%pt)



既存店売上・トップバリュ売上前年同期比

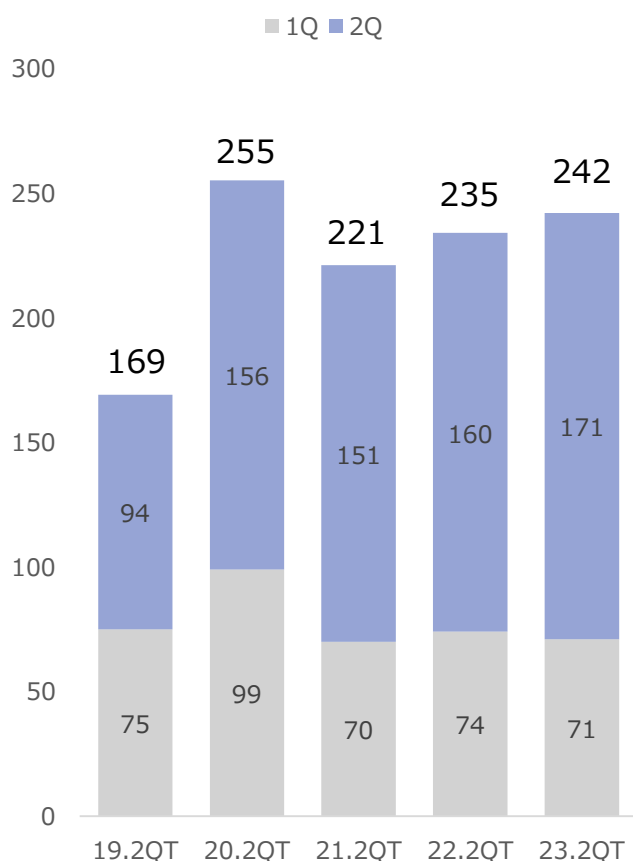
(%)



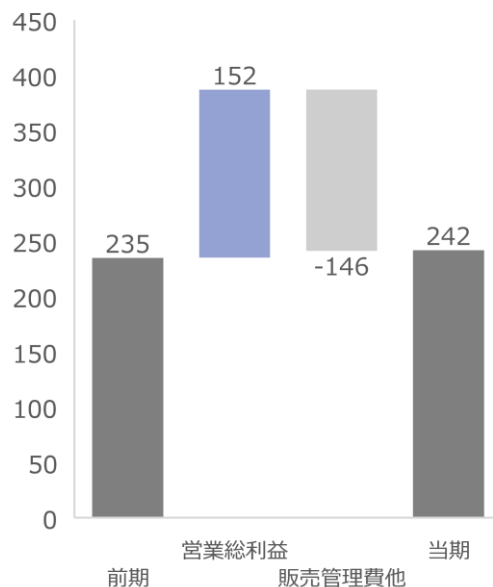
※ 2019年度、2020年度実績は会社のセグメント移動を調整。
2022年度の1Q実績は87百万円、億円未満切り捨てのため「0」を表示。

- ・営業利益は1Q減益から一転、2Qで過去最高を更新し上期増益
- ・インバウンド需要への対応強化策として免税対応店舗を1,000店舗に拡大予定

セグメント利益 (億円)



営業利益増減要因 (億円)



ウエルシアHD 既存店前年同期比 (%)

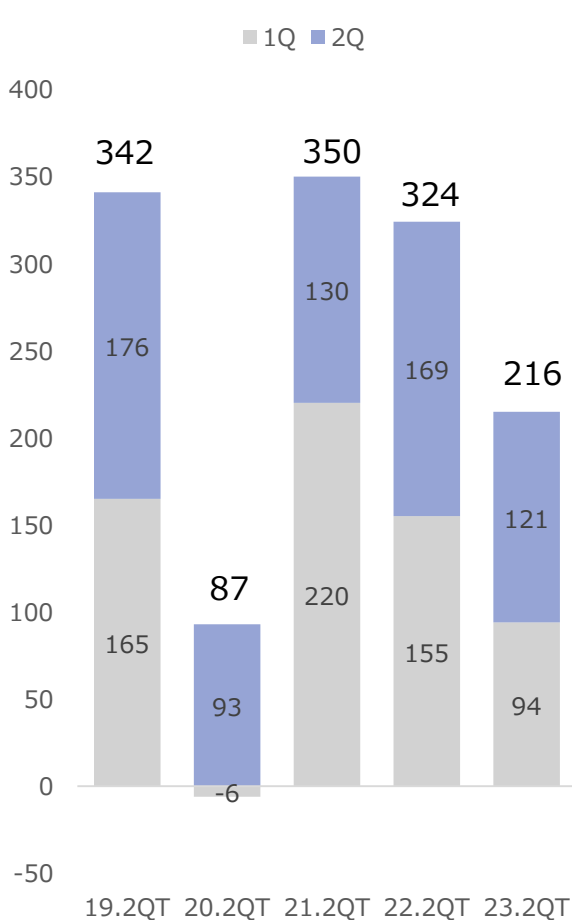


ウエルシアHDの成長戦略

出店・閉店	56店舗・18店舗	国内グループ店舗数 増減	2,790店舗 +39店舗
調剤併設店舗数 併設率比	2,070店舗 75.5%	グループ店舗数 増減	2,801店舗 +38店舗

- ・営業債権残高は増加するも、貸倒関連費用の増加や顧客基盤拡大コストが先行し減益
- ・2Qでマレー圏が増益、メコン圏も回復基調となり、海外は業績改善

セグメント利益 (億円)



イオンフィナンシャルサービス 国内・海外の営業利益 (億円,%)

	2Q (前年同期比・差)	上期 (前年同期比・差)	要因
国内	2 (3%・▲69)	16 (16%・▲83)	残高拡大による貸倒関連費用や顧客基盤拡充に向けた販売促進費の増加により減益
海外	103 (114%・+12)	184 (84%・▲34)	貸倒関連費用が増加するも、トップラインの順調な拡大によりおおよそ計画通りに推移

イオンフィナンシャルサービス 海外エリア別業績 ※ (億円,%)

		中華圏	前年 同期比	メコン圏	前年 同期比	マレー圏	前年 同期比
		営業利益	2Q	21	112%	41	95%
	上期	42	125%	68	72%	73	82%
貸倒関連費用	2Q	17	195%	81	116%	43	89%
	上期	29	198%	166	130%	95	156%

各種取扱高、営業債権残高状況 (億円,%)

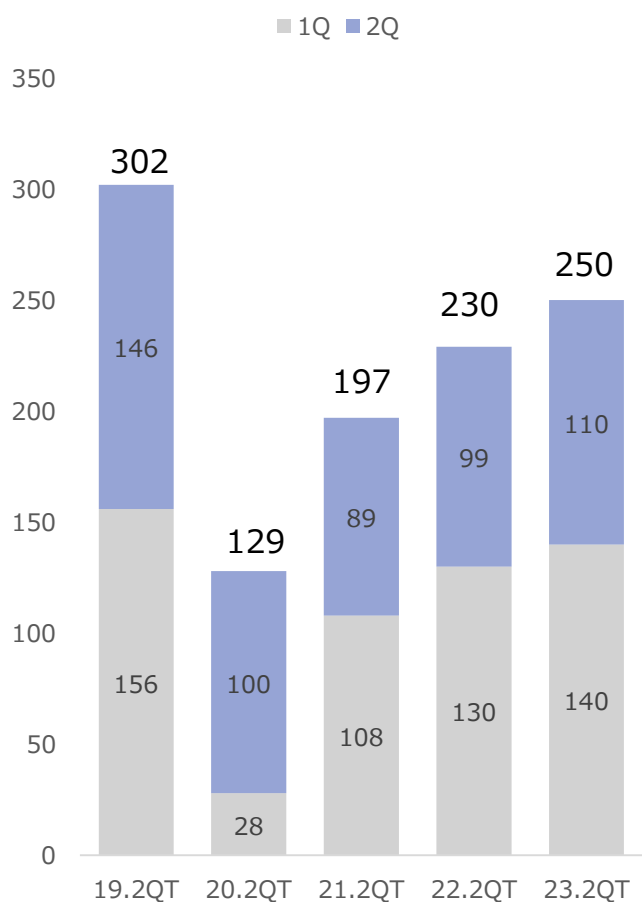
		取扱高	前年同期比	営業 債権残高	期首差
国内	ショッピング	34,919	110%	13,065	+1,091
	キャッシング	1,862	115%	4,026	+73
海外	ショッピング	2,078	124%	1,481	+122
	キャッシング	723	110%	1,471	+156

※ ・中華圏：中国、香港 ・メコン圏：ベトナム、タイ、カンボジア、ラオス、ミャンマー
 ・マレー圏：マレーシア、インドネシア、フィリピン、インド

- ・営業利益250億円で20億増益。アセット活用やコスト圧縮で更なる収益改善を図る
- ・アセアンは外需低迷などに伴う経済成長鈍化の影響を一部受けるも増収増益
- ・中国は前年にコロナ休業期間の固定費を特損計上した影響を除けば実質13億円の増益

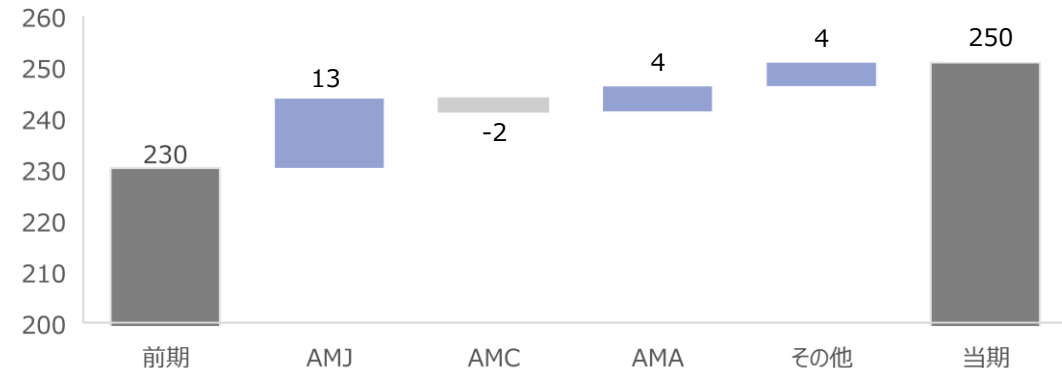
セグメント利益

(億円)



営業利益増減 ※1

(億円)



モール専門店売上

既存モール・エリア別 (%)	前年同期比	日本国内既存モール・業種別 (%)	前年同期比
日本	107.6	大型専門店	103.6
中国	129.0	衣料品	105.0
ベトナム	109.7	服飾品	106.4
カンボジア	91.6	雑貨	103.6
インドネシア ※2	123.4	飲食	114.4
		アミューズメント・シネマ	110.6
		サービス	118.4
		専門店小計	108.2

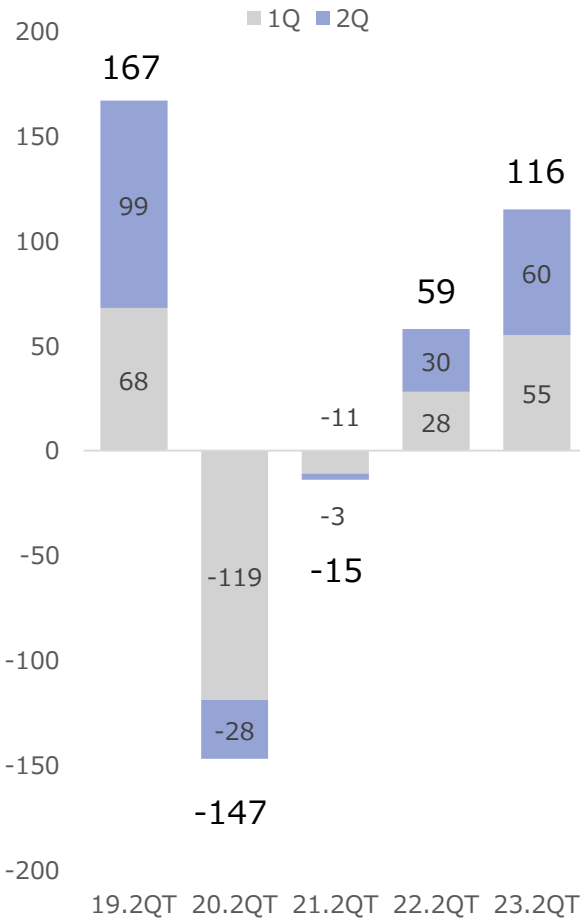
※1 AMJ:イオンモール国内セグメント, AMC:イオンモール中国セグメント, AMA:イオンモールアセアンセグメント

※2 インドネシアは既存モール来店客数

- ・アフターコロナのエンタメ需要を捉えたイオンファンタジーやイオンエンターテイメントが牽引
- ・収益構造改革に取り組むジーフト、ブランド力強化・MD改革を進めるコックスが増収増益

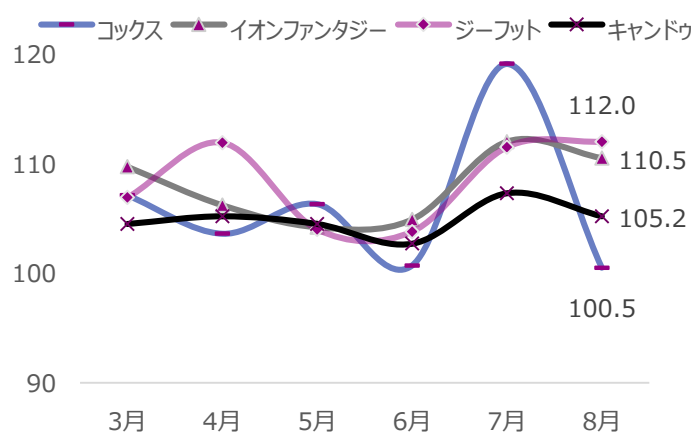
セグメント利益 ※1

(億円)



主要上場企業の既存店売上前期比

(%)

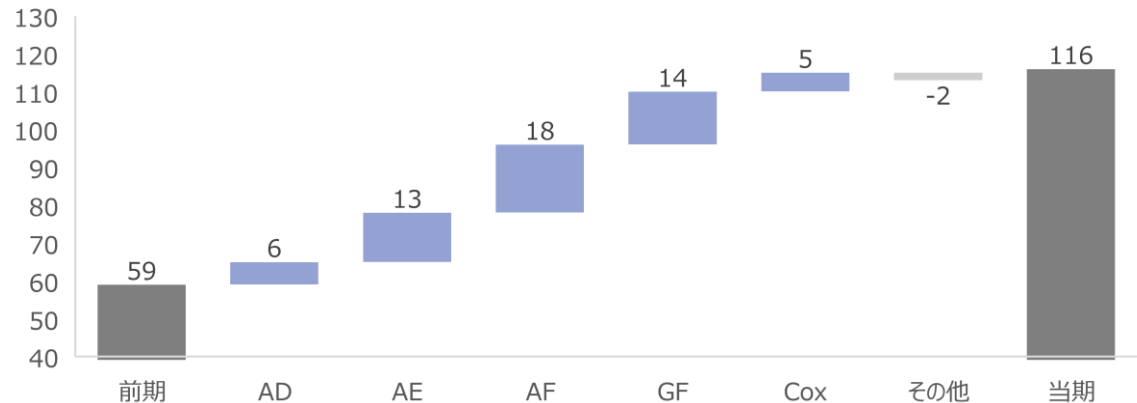


売上総利益率 前年同期差 (%pt)

	1Q	2Q	上期
コックス	+3.9	+7.7	+5.7
イオンファンタジー	+1.1	+5.9	+3.7
ジーフト	+1.4	+1.8	+1.7

営業利益増減 ※2

(億円)



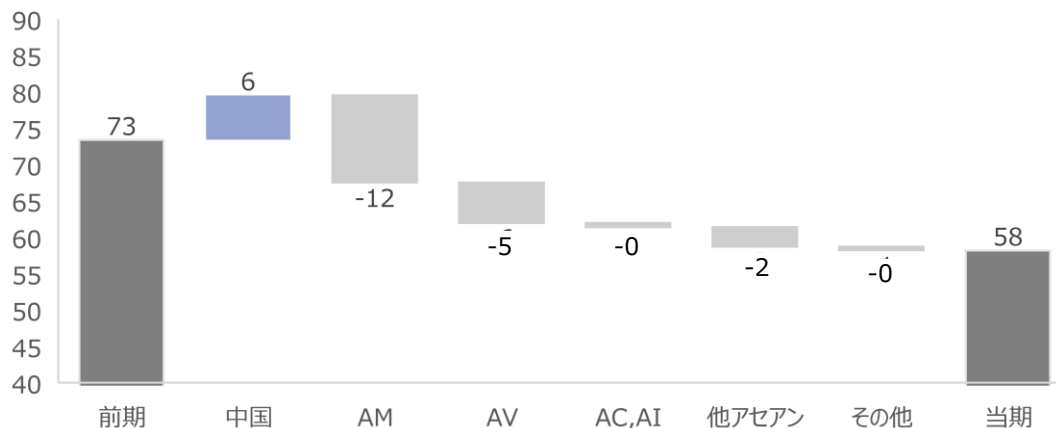
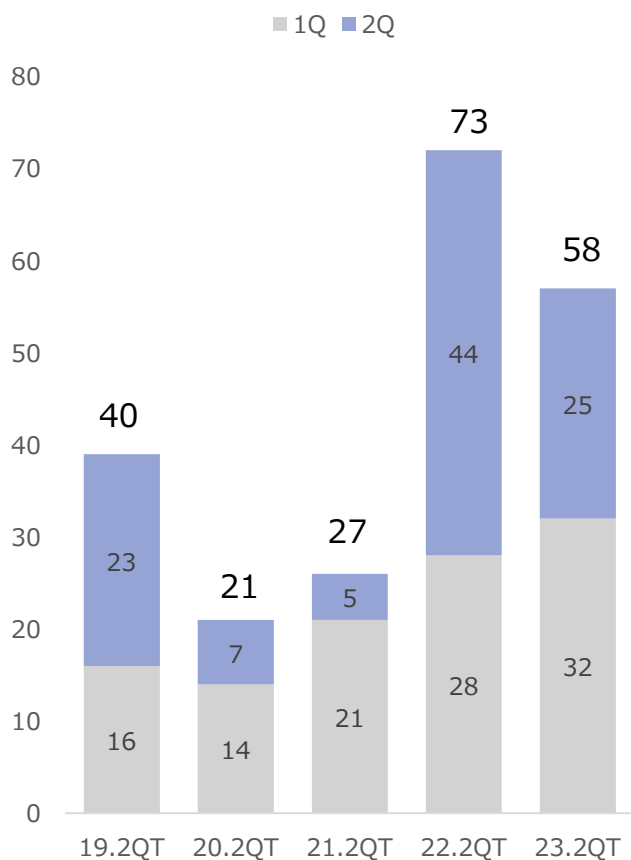
- ・アセアン：マレーシア・ベトナムでは経済の悪化もあり営業減益。衣料・住余の需要減
- ・中国：ゼロコロナ政策の解除で客数が回復、湖北は売上・利益ともに好調

セグメント利益

(億円)

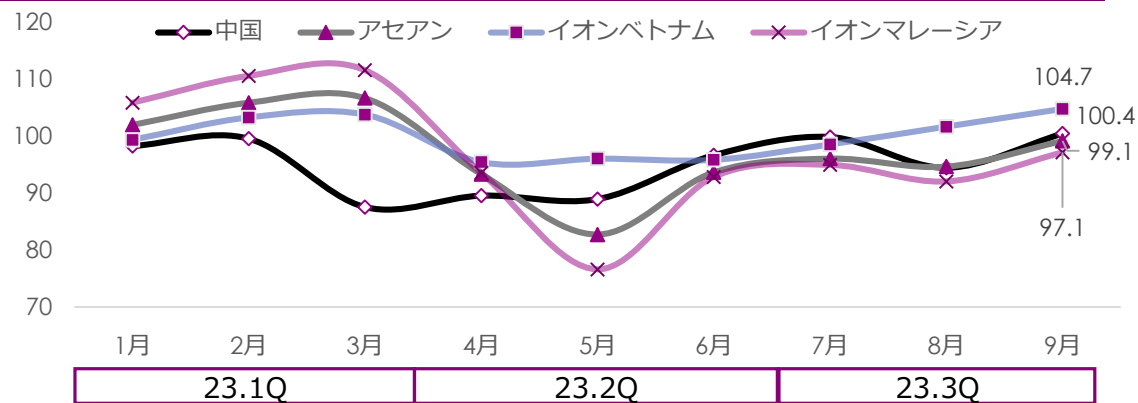
営業利益増減 ※1

(億円)



中国・アセアン各社 既存店売上高前期比 ※2

(%)



※1 中国:中国事業, AM:イオンマレーシア, AV:イオンベトナム, AC:イオンカンボジア, AI:イオンインドネシア, 他アセアン:他のアセアン4社
 ※2 中国:イオン香港、イオン華東、青島イオン、広東イオン、北京イオン、イオン華南、イオン湖北、アセアン:イオンマレーシア、イオンビッグマレーシア、イオンタイランド、イオンベトナム

	2023年度	上期 実績
電気代 上昇	水光熱費への影響 前期差 +300億円 (年間)	水光熱費 前年同期差 +55億円 (1Q : +60億円、2Q : ▲5億円) ✓ 使用量のコントロール ✓ 創エネ・省エネの推進 ✓ 節電機器の前倒し導入
賃金上昇	人件費への影響 前期差 +500億円 (年間)	人件費 前年同期差 +250億円 (1Q : +110億円、2Q : +140億円) ✓ 人時生産性 前年同期比 +106.6%※

・期初予想を据え置き

(億円,%)

	2019年度	2022年度	2023年度 (予想)	前期比・差
営業収益	86,042	91,168	94,000	+3.1%
営業利益	2,155	2,097	2,200	+103
経常利益	2,058	2,036	2,100	+64
親会社株主に帰属 する当期純利益	268	213	250	+37

サステナビリティ・リンク・ボンドの発行

2023年8月に、企業活動を通じて持続可能な社会の実現に貢献することを目的に、小売業として初めて、サステナビリティ目標の達成度合いに応じて条件が変動するサステナビリティ・リンク・ボンドを発行しました。

(1)社債の名称	イオン株式会社第24・25回無担保社債（社債間限定同順位特約付） （サステナビリティ・リンク・ボンド）	
(2)発行年限	5年	10年
(3)発行額	350億円	150億円
(4)利率	0.799%	1.360%
(5)条件決定日	2023年8月10日（木）	
(6)発行日	2023年8月17日（木）	
(7)償還日	2028年8月17日（木）	2033年8月17日（木）
(8)取得格付	A-（株式会社格付投資情報センター）	
(9)KPI	KPI 1：CO ₂ 排出量の削減率 KPI 2：使い捨てプラスチック使用量※（売上1億円当たりの使用量）の削減率 KPI 3：食品廃棄物発生量（売上百万円当たりの発生原単位）の削減	

「福島県産水産物」の取り扱いについて

2023年8月に、「福島県産水産物」の取り扱いについて、これからも科学的な根拠に基づき、商品の安全を担保するとともに、生産者の皆さまと持続可能な生産・流通体制の維持にむけて、積極的に取り組んでいくことを発表しました。

＜イオンの福島県産水産物に関する自主検査体制＞

「福島鮮魚便」をはじめ、イオンで販売している福島県産水産物は、出荷元の漁港で実施される魚種毎の検査に加え、イオンでも入荷のある週毎にサンプルを採取しモニタリング検査を実施しています。また水産加工品については水揚げ時期と使用時期を考慮して原料段階で検査を行います。

なお、自主検査の結果については、引き続きイオンのコーポレートサイト*で公開してまいります。

※「放射能・放射性物質 関連情報」 <https://www.aeon.info/radioactivity/>

The logo for AEON, featuring the word "AEON" in a bold, purple, sans-serif font. A stylized, three-dimensional purple ring is positioned horizontally across the middle of the letters "E" and "O".

AEON

2023年8月末 連結貸借対照表



(億円)

資産の部 (主要項目のみ)	2023/2	2023/8	前期末差	負債・純資産の部 (主要項目のみ)	2023/2	2023/8	前期末差
現預金	13,097	11,681	-1,415	支払手形・買掛金	10,399	10,993	+593
受取手形・売掛金 (割賦売掛金含む)	18,777	20,499	+1,721	有利子負債 (金融子会社除く)	22,722	23,108	+386
たな卸資産	5,967	5,984	+17	有利子負債 (金融子会社)	12,109	12,950	+841
営業貸付金・銀行業 における貸出金	29,650	30,991	+1,341	銀行業における預金	43,922	45,011	+1,089
有形固定資産	33,014	34,014	+1,000	負債合計	103,712	106,953	+3,240
投資その他資産	10,022	10,504	+481	株主資本	9,084	9,140	+55
資産合計 (金融子会社除く)	123,415 (60,780)	127,558 (62,759)	+4,143 (+1,978)	純資産合計 (金融子会社除く)	19,702 (15,440)	20,604 (16,096)	+902 (+656)
				負債・純資産合計 (金融子会社除く)	123,415 (60,780)	127,558 (62,759)	+4,143 (+1,978)

・前年度水準の一株当たり36円の配当予想

	2022年度	2023年度 (予想)
第2四半期末	普通配当 18円	普通配当 18円
期末	普通配当 18円	普通配当 18円
合計	普通配当 36円	普通配当 36円

ダイエー再編関連企業の2023年度上期の実績



(億円,%)

事業	社名	営業収益		営業利益	
		実績	前期比	実績	前期差
GMS	イオンリテールストア ※関東、近畿、名古屋の 旧ダイエー-GMS	504	-3.1%	-16	2
SM	ダイエー	1,502	+3.9%	-11	+10

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権はイオン株式会社に帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。